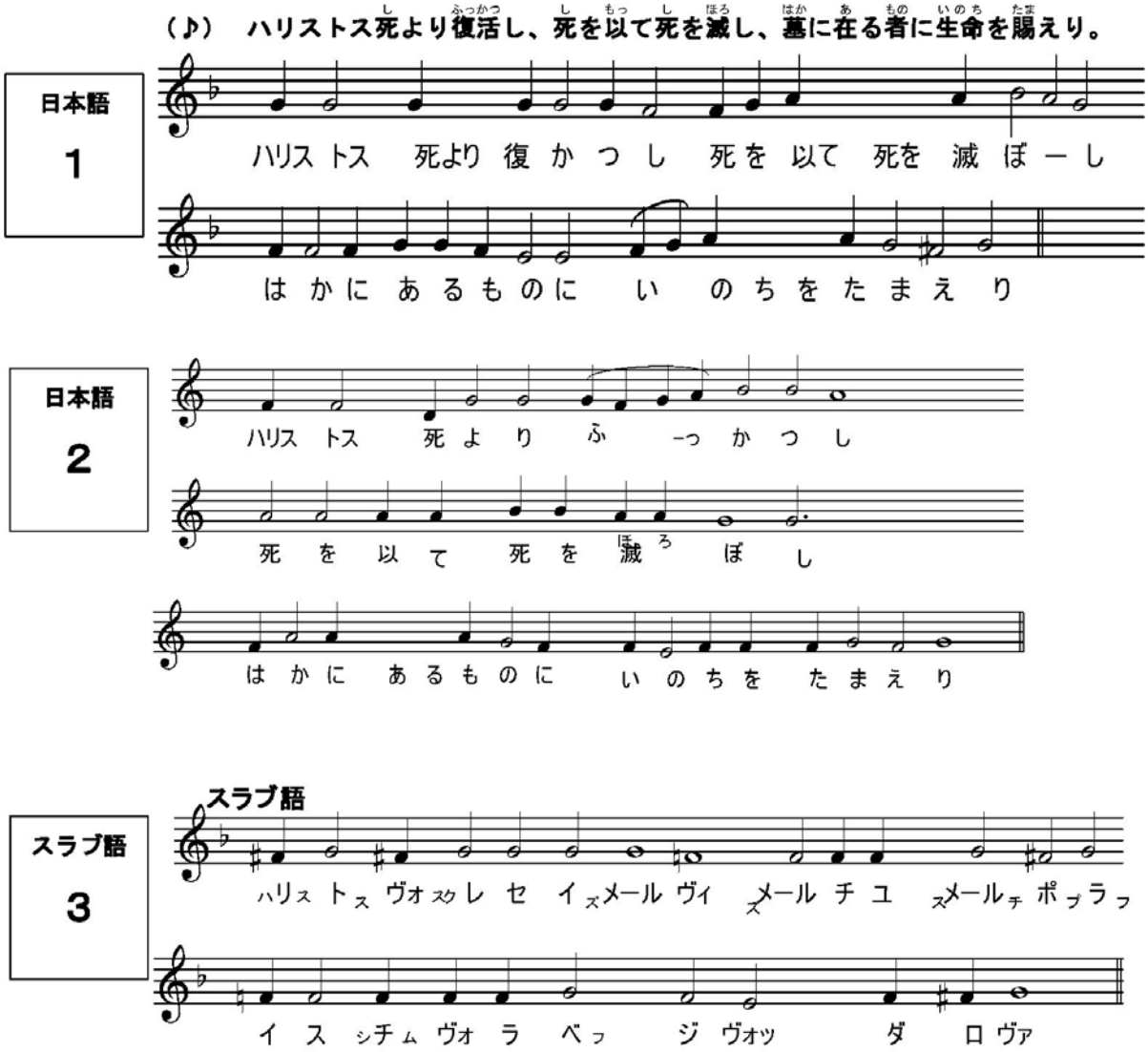
単音聖歌譜『聖体礼儀』－神の国への旅―新たなる神の民の宴　と併用　P 番号記載
教団発行の赤本のページ数は＜　＞に記載

復活祭第４の主日

癱者の主日

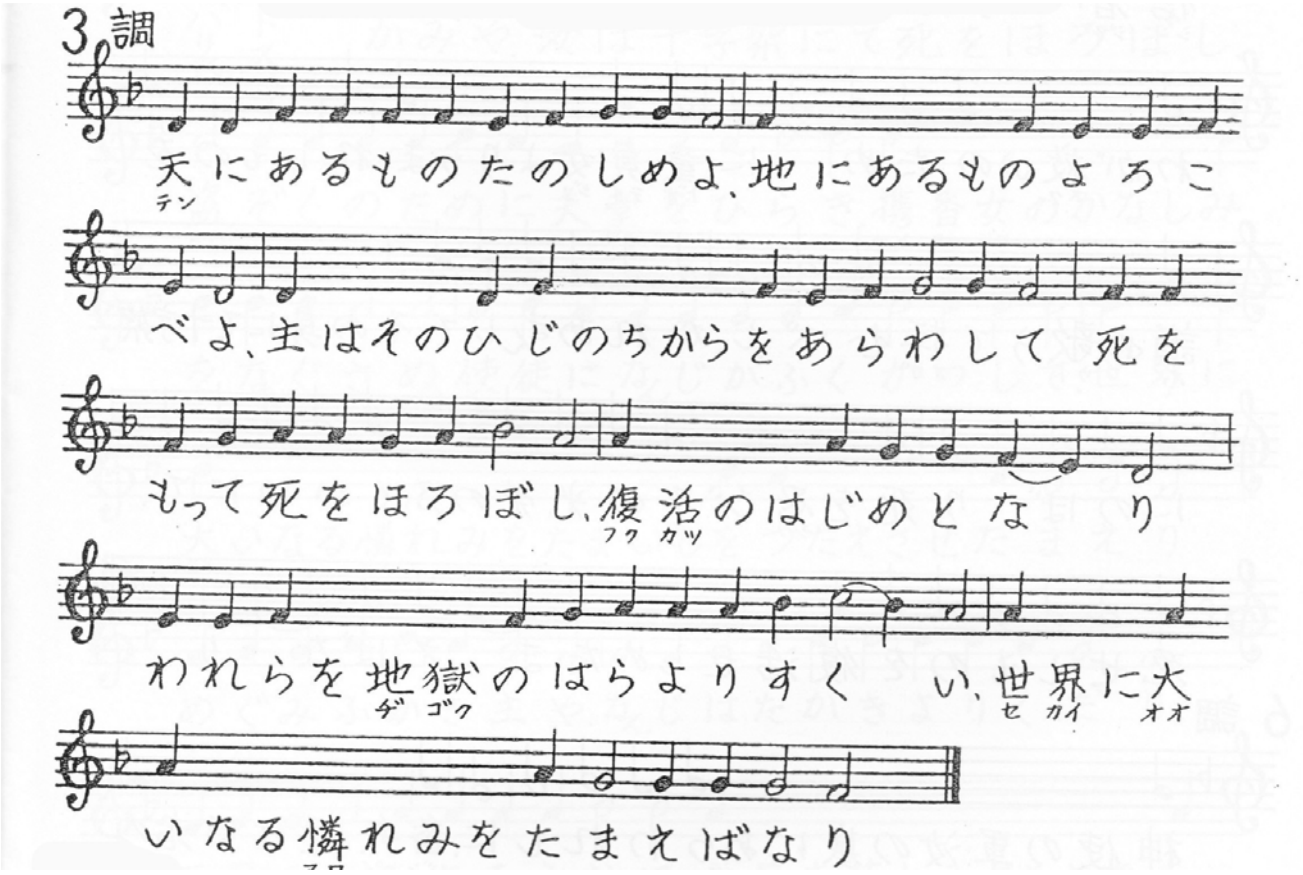
冒頭　P3　＜赤本 P1 ＞
司祭「父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今もいつも世々に･･･」に続いて
聖歌「アミン」「ハリストス死より復活し、死を以て死を滅ぼし･･･」３回

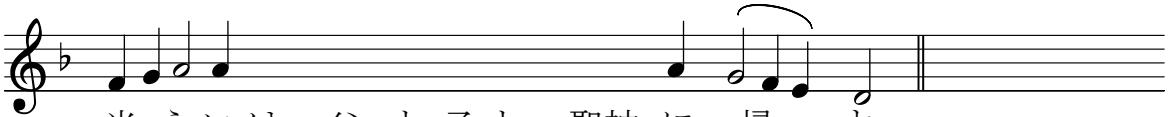


トロパリ、コンダク

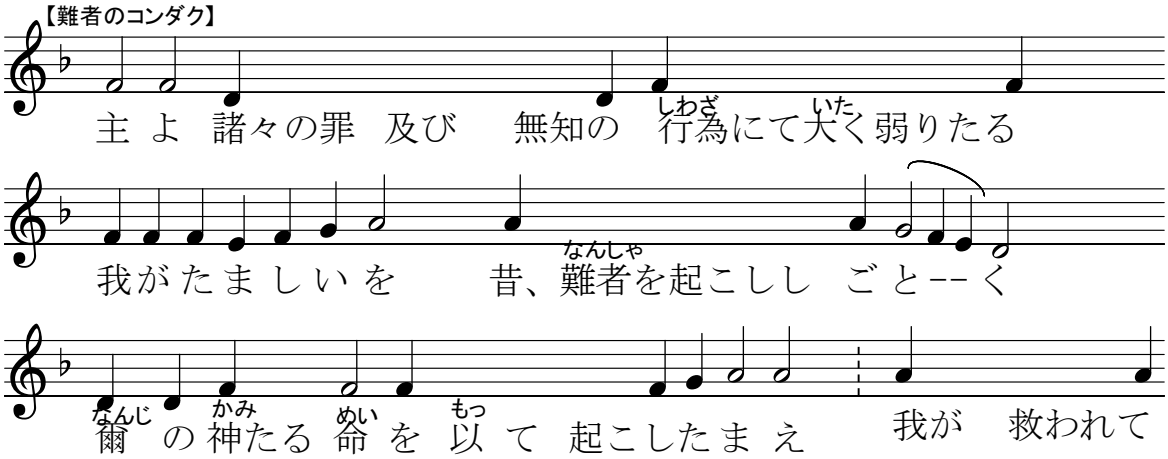
P8　＜赤本 P9－13＞

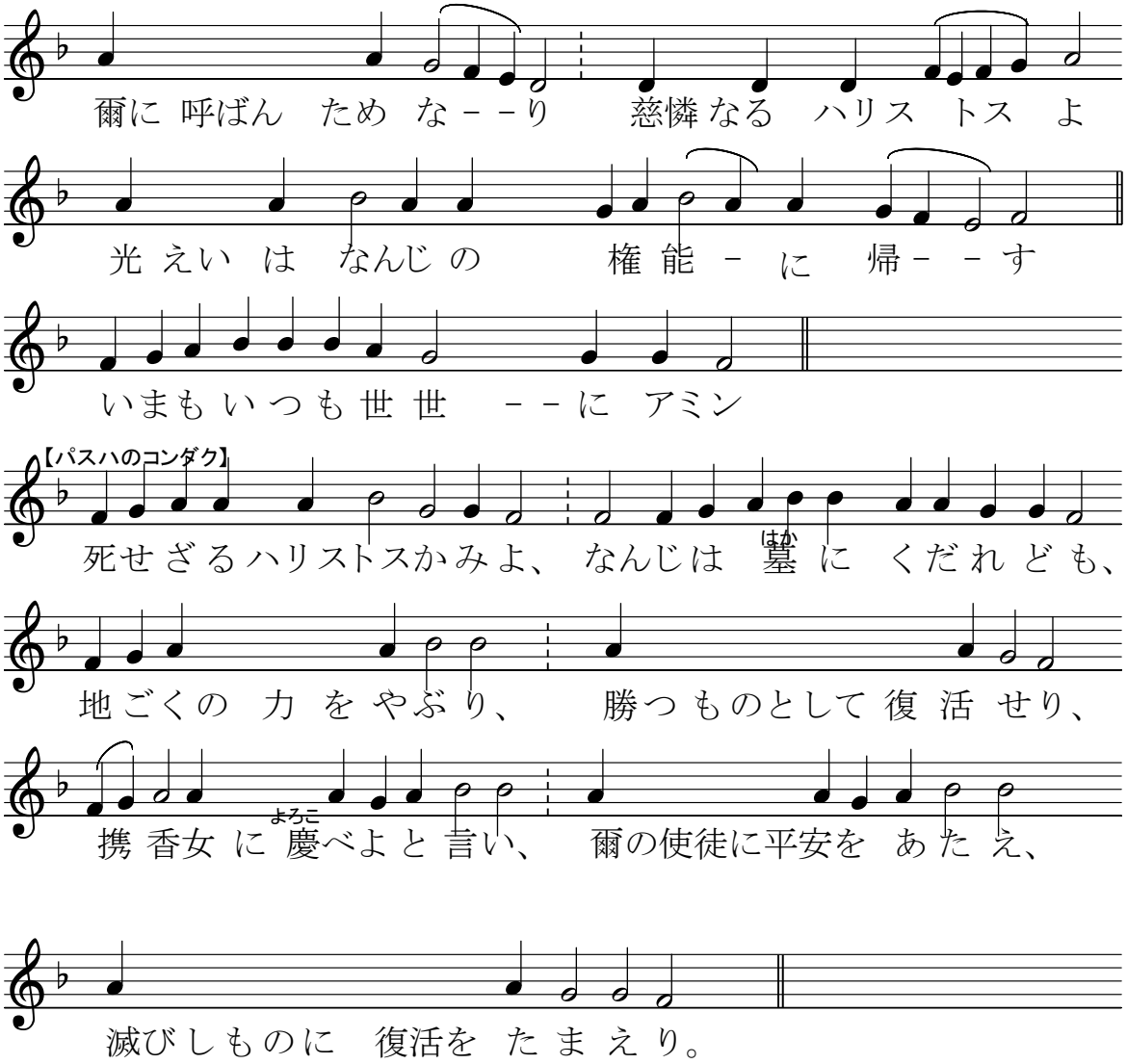
主日 3 調「天にあるもの」、光栄は、なん者のコンダク「主よ諸々の罪」、今もパスハのコンダク「死せざる」





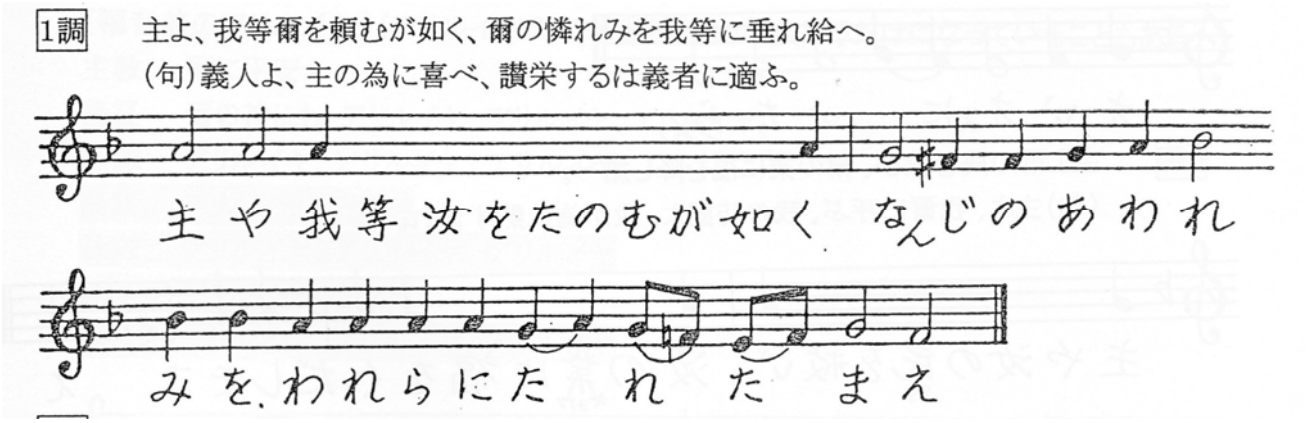
【難者のコンダク】





【主や敬虔なる者】【聖なる神】へ戻る

ポロキメン



聖使徒行実の読み（ 9 ： 32 ～ 42 ）
謹みて聴くべし

彼の日、ペトル、徧く諸方を行きて、リッダに居る聖徒にも詣りしことあり。彼處に於て、彼は、一人、名はエネイ、癱瘋を患ひて、八年間、床に臥せる者に遇へり。ペトル、彼に謂へり、

『エネイよ、 イイスス・ハリストス、 爾を愈す。 起きて、爾の床を治めよ』。

彼、直に起きたり。 リッダ、及びサロンに居る者は、皆、彼を見て、主に歸せり。

イオッピヤに、一の女徒、名はタワィファ、（譯すれば『鹿』）と云ふ者あり。彼は廣く善事を行ひ、施済を爲せり。 適、其日に、病みて死せり。彼を洗ひて楼に置きたり。 リッダは、イオッピヤに近きに因り、門徒は、『ペトル、彼處に在り』と聞きて、二人を彼に遣して、其遲はらずして彼等に來らんことを求めたり。 ペトル、起ちて、之と偕に往けり。至るに及びて、彼を引きて、楼に登らせ、寡婦、皆、哭きて、彼の側に立ち、『鹿』の彼等と偕に在りし時に作りたる上衣、下衣を示せり。ペトル、彼等を悉く外に出し、膝を屈めて祷れり。而して、屍に向ひて曰へり、

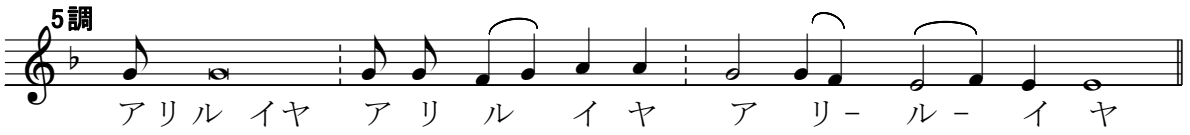
『タワィファ、起きよ』。

彼、其目を啓き、ペトルを見て、坐せり。ペトル、之に手を授けて、之を起し、聖徒、及び寡婦を召して、之を活ける者として其前に立てたり。此の事、全イオッピヤの知る所と爲りて、多くの者、主を信ぜり。

アリルイヤ　5調

主よ、我長く爾の慈憐を歌い、世々に爾の真実を伝えん。

（句）蓋、我言う、慈憐は長く建てられたり。



福音の読み

イオアン伝（５：１～１５）

彼の時、イイスス、イエルサリムに上れり。イエルサリムに、羊の門の側に、池あり。エウレイの言に、『ワィフェズダ』と曰ふ。之に傍ひて、五の廊あり。此の中に多くの病者、瞽者、跛者、血、枯るゝ者、臥して、水の動くを待てり。蓋、主の使、時ありて、池に下りて、水を動かせり。水の動く後、先づ池に入る者は、何の病を患ふるに論なく、愈ゆるを得たり。彼處に、一人、三十八年、病を患ふる者ありき。イイスス、彼が臥せるを見、其之を患ふること、已に久しきを知りて、彼に謂ふ、

「爾、愈えんことを欲するか」。

病者、答へて曰へり、

『主よ、然り。但、水の動く時、我を扶けて、池に下す人なし。我が來る時は、他人、我に先だちて下る』。

イイスス、彼に謂ふ、

「起きて、爾の牀を取りて行け」。

其人、直に愈え、其牀を取りて行けり。

是の日は、安息日なり。故に、イウデヤ人、愈されし者に謂へり、

『安息日なり。爾、牀を取るは宜しからず』。

彼、答へて曰へり、

『我を愈しゝ者は、我に、「爾の牀を取りて行け」と言へり』。

彼等、問へり、

『爾に、「牀を取りて行け」と言ひし人は誰ぞ』。

愈されし者は、其誰たるを知らざりき。蓋、彼處に人の衆きに因りて、イイスス隠れたり。

厥後、イイスス、此の人に、殿に遇ひて、之に謂へり、

「視よ、爾は愈えたり。復、罪を犯す勿れ。恐らくは、患に遭ふこと、更に甚しからん」。

彼、往きて、イウデヤ人に、『我を愈しゝ者は、イイススなり』と告げたり。

以下変更箇所は「携香女の主日」と共通